

高等学 校

平成25年度

# 教育研究員研究報告書

商 業

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	2
V	研究の内容	4
VI	研究の成果	23
VII	今後の課題	24

## 研究主題

# 「思考力・判断力・表現力等を育むための授業実践と学習評価の提示」

## I 研究主題設定の理由

学校教育法には、学力の重要な三つの要素が示されている。基礎的・基本的な知識・技能、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度である。また、教育基本法の改正に伴い、平成21年3月に公示された高等学校学習指導要領では、生徒に生きる力を育むこと、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むことや、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めることなどが示されている。

一方、社会のグローバル化や情報化、産業構造の変化や雇用の流動化など、変化の激しい社会においては、経済社会を取り巻く環境の変化に適切に対応してビジネスの諸活動を主体的、合理的に行い、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成することが求められている。そのため、基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動を重視するとともに、論理や思考等の基盤である言語の果たす役割を踏まえ、言語活動を充実することが重要である。商業科においても、ビジネスの諸活動に関する具体的な事例を取り上げ、考察、討論、発表などを行う学習活動をより意図的・計画的に実践し、思考力・判断力・表現力等を評価する明確な評価基準を設定し学習指導と学習評価を一体化させることで、生きる力を育む授業実践が可能となり、生徒一人ひとりに職業人として社会で生きていく力を身に付けさせることができる。

本部会では、学習指導要領改訂の趣旨と高等学校部会の共通テーマ「思考力・判断力・表現力等を育む学習活動を活性化させる学習評価の在り方」を踏まえ、特に、思考力・判断力・表現力等を育む学習評価を通して、観点別学習状況の評価を学習指導に定着させ授業の改善を図る授業実践について研究することを目的として、「思考力・判断力・表現力等を育むための授業実践と学習評価の提示」を研究主題とした。

## II 研究の視点

### 1 思考力・判断力・表現力等を育むための具体的な授業実践の研究

商業科目は、知識・技能の習得に重点をおいた授業実践を行っている傾向があるため、思考力・判断力・表現力等を育むために、ビジネスの諸活動に関する具体的な例を取り上げ、考察、討論、発表などを行う学習活動を積極的に行う授業実践について、商業の各分野で具体的に研究し、例示する。

### 2 思考力・判断力・表現力等を育むための明確な評価規準・活用方法の研究

基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、これらを活用して課題を解決していくために必要な思考力・判断力・表現力等を育むためには、明確な評価規準を設定して学習活動を行うことが求められる。商業の各分野で「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・

理解」の観点別学習状況の評価を定着させるとともに、特に、思考力・判断力・表現力等を育むための明確な評価規準と活用方法を研究し、例示する。

### Ⅲ 研究の仮説

生徒一人一人が職業人として社会で生きていくためには、商業の各分野の基礎的・基本的な知識・技能とともに、ビジネスの諸活動に関する具体的な事例を取り上げ、考察、討論、発表などを行う学習活動が求められる。そのためには、①体験から感じ取ったことを表現する力、②事実を正確に理解し伝達する力、③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする力、④情報を分析・評価し、論述する力、⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する力、⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる力が身に付く授業実践と学習評価が必要である。言語活動を充実させる授業実践と学習評価を意図的・計画的かつ継続的に実践することで、思考力・判断力・表現力等を育むことができる。

### Ⅳ 研究の方法

商業の各分野において、日々の学習活動を通して評価・検証を行う。評価・検証に当たり、生徒の思考力・判断力・表現力等を育み明確に評価できる評価票を作成する。また、生徒が学習評価を行うための分かりやすい自己評価票・相互評価票を工夫する。また、汎用性を高めるために、集計票の活用方法についても提案する。

#### 1 マーケティング分野「商品開発」

##### (1) オリジナルパンの商品開発における実践的・体験的な学習

本研究では、オリジナルパンの企画・販売について、環境分析や開発テーマの検討、市場調査、商品コンセプトの立案、企業との交渉、校内販売を行うための企画、メーカーとの交渉、販売促進のための広告等の制作など、ビジネスの様々な場면을体験させる。この実践的・体験的な学習により、思考力・判断力・表現力等を育む学習活動の機会を増やす。

##### (2) 評価項目の明確化

新設する科目「商品開発」は、消費者の視点に立った商品開発の流れについて体験的に理解させ、顧客満足の実現を目指す商品を企画・開発し、提案するとともに、流通活動を行う能力と態度を育てることが求められている。評価票を活用するに当たり、企業が行っているマーケティング活動に興味・関心をもつことができるか、プレゼンテーション能力を高めることができるか、顧客満足の実現のために、学習活動を主体的・創造的に行うことができるか、新しい商品やサービスを考え出したり、自分自身の意見の根拠を相手に説明することができるか、他者のプレゼンテーションを評価し、そこから新たなことを学びとることができるか検証する。

##### (3) 評価票の活用

思考力・判断力・表現力等を育むため、自己評価票・相互評価票を活用し、生徒に学習活動の始めに意識的に動機付けを行う。評価票に各単元の目標に応じたねらいを書き加え、各単元の終わりに評価・集計することにより、学習活動の明確な評価を行う。

## **2 ビジネス経済分野「国際ビジネス」**

### **(1) インターネットを活用した調べ学習**

膨大な情報の中から、必要な情報を取捨選択し、情報を整理してまとめ、自分の考えや意見を述べるための資料を準備することの必要さを学ぶ。

### **(2) プレゼンテーションの実施**

プレゼンテーションの実施のため、パワーポイントを使用してアプリケーションソフトの使用方法を学ぶ。発表する内容により、必要な操作と必要でない操作を使い分ける。教室の教卓側に立ち、発表するので、自分が発表する態度、他人の発表を聞く態度を身に付けるとともに、パワーポイントの見やすさや分かりやすさ、第三者への伝え方を学ぶ。

### **(3) 評価票の活用**

発表を取り入れる授業では、自己評価票に加え、相互評価票も活用し、相互に指摘したり、発表全体を通して、評価票を活用することで、自分及び他人の発表から思考力・判断力・表現力等の育成を行う。

## **3 会計分野「簿記」**

### **(1) 知識の活用**

「簿記」は、検定を意識した授業を展開しがちである。生徒の知識を確認しながら、企業の資産・負債・純資産・収益・費用の5要素の内容を理解させる。身に付けた知識で、企業の決算報告から、どこまで企業の全体像が理解できるか実践する。

### **(2) 企業の分析**

EDINET (エディネット)「金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム」を活用し、生徒が興味・関心をもつ企業を提示し、既に学習した基礎的・基本的知識を活用して、読み取った情報から企業の分析ができるか実践する。

### **(3) 評価票の活用**

自己評価票の活用に当たり、学習のねらいを明確にして、思考力・判断力・表現力等をどの場面で育んでいるのか意識し、気付かせることによって、自分の課題を明確にさせる。

## **4 ビジネス情報分野「電子商取引」**

### **(1) グループ単位での作業**

個人ではなくグループ単位での作業を通して、自分の考えを正確に分かりやすく伝えるとともに、他人の考えも理解し、グループとしての意見をまとめる力の育成を図りながらコミュニケーション能力や表現力の大切さに気付かせる。

### **(2) プレゼンテーションの実施**

プレゼンテーション活動を通して、表現力の育成を図り、発表に当たっては、事前に準備が必要な発表用資料の作成や発表の内容を検討させ、発表の方法や聞く態度等も重要であることを感じとらせる。

### **(3) 評価票の活用**

自己評価票、グループ内での相互評価票の活用について、生徒に強く意識させ、繰り返し実践を行うことで、思考力・判断力・表現力等を授業のあらゆる場面で育んでいく。

## V 研究の内容

### 1 研究構想

**全体テーマ** 『学習指導要領に対応した授業の在り方』

**高校部会テーマ** 『思考力・判断力・表現力等を育む学習活動を活性化させる学習評価の在り方』

#### 思考力・判断力・表現力等を育む学習活動の現状

商業科においては、ビジネスの諸活動に関する具体的な事例を取り上げ、考察、討論、発表などを行う学習活動を通して、思考力・判断力・表現力等を育てているが、知識・技能の習得に重点をおいた学習活動になりがちで、十分とはいえない現状がある。

#### 学習活動の取組に対する学習評価の現状

定期テストや提出物などを点数換算し、画一的に評価を行うことが多く、変化の激しい社会の中で、社会的責任を担う職業人として生きていくために必要な思考力・判断力・表現力等を育てるための明確な評価規準を設定した学習活動が行われていない。

#### 現状から見てきた課題

社会的責任を担う職業人は、論理的に考える力、情報を収集・分析・考察する力、課題に対して論述・改善する力が必要である。これらの力を高校生活の中で身に付けさせるために、思考力・判断力・表現力等を育む授業の継続的な実施と授業を充実させる明確な評価規準・活用方法が必要である。

### ( 商業 )部会主題

思考力・判断力・表現力等を育てるための授業実践と学習評価の提示

#### 仮 説

商業の各科目で明確な評価規準を設定し①体験から感じ取ったことを表現する力、②事実を正確に理解し伝達する力、③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする力、④情報を分析・評価し、論述する力、⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する力、⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる力が身に付く授業を、意識的に繰り返し実践することで、思考力・判断力・表現力等を育てることができる。

#### 具体的方策

商業の各分野において、自己評価票・相互評価票を活用し、思考力・判断力・表現力等を育む学習活動を充実させる。

- ・マーケティング分野では、商品開発に関する課題を設定し、商品開発担当者の視点で、具体的な事例やケーススタディを通して構想を立て、評価・改善する力を育てるための授業の提案を行う。
- ・ビジネス経済分野では、企業の社会的責任に対して関心をもち、環境問題の取組等を調査し、具体的な事例を通して適切に表現する授業実践を行う。
- ・会計分野では、具体的な企業の財務諸表を用いて、会計に関する知識と技能を活用して企業の実態を分析・評価し、論述する授業実践を行う。
- ・ビジネス情報分野では、互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させるために、グループごとに利用者・制作者両方の立場に立ったウェブページ制作の授業の提案を行う。

#### 評価・検証

生徒の思考力・判断力・表現力等を明確に評価できる評価票を作成し、生徒による自己評価や相互評価、生徒一人ひとりの行動や記述内容、発言等から検証し仮説の立証を行う。

## 2 評価・検証で使用した自己評価票の集計結果及び集計票の提案

### (1) 自己評価票の集計結果

思考力・判断力・表現力等を育むための評価方法として、自己評価票・相互評価票を作成した。評価票の評価項目・内容については、自己評価票と相互評価票を共通項目とし、短時間で共通の尺度で複数項目の評価ができるように配慮した。また、評価票には分かりやすく明確な評価の内容を示し、今どのような力を身に付けるための授業を受けているかを生徒に自覚させ、考えさせた。以下は、各分野における授業で実際に使用した評価票に示した評価項目及び明確な評価内容である。

＜評価票 マーケティング分野「商品開発」の評価項目＞

#### 1 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする力（仮説③）

（商品開発における市場調査の役割や分析結果を解釈し、商品コンセプトや企画を提案できたか）

#### 2 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する力（仮説⑤）

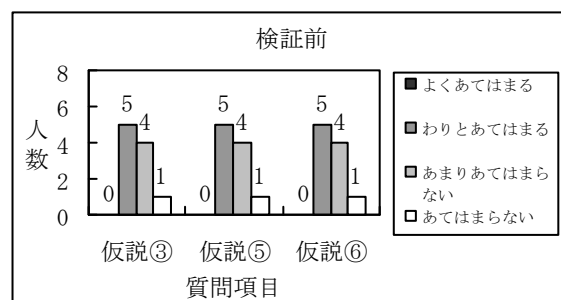
（商品アイデアのスクリーニングを通して商品コンセプトや企画につなげることができたか）

#### 3 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる力（仮説⑥）

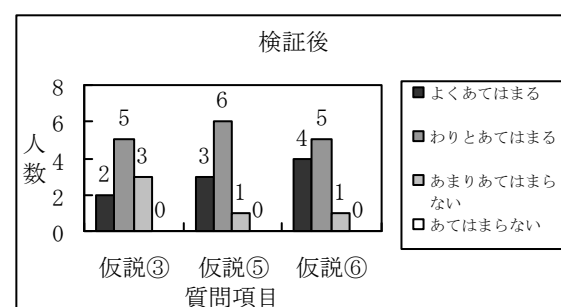
（商品アイデアのさまざまな発想方法において、互いの考えを発展させることができたか）

検証前（9月）・検証後（11月）の比較

	検証前		
	仮説③	仮説⑤	仮説⑥
よくあてはまる	0	0	0
わりとあてはまる	5	5	5
あまりあてはまらない	4	4	4
あてはまらない	1	1	1



	検証後		
	仮説③	仮説⑤	仮説⑥
よくあてはまる	2	3	4
わりとあてはまる	5	6	5
あまりあてはまらない	3	1	1
あてはまらない	0	0	0

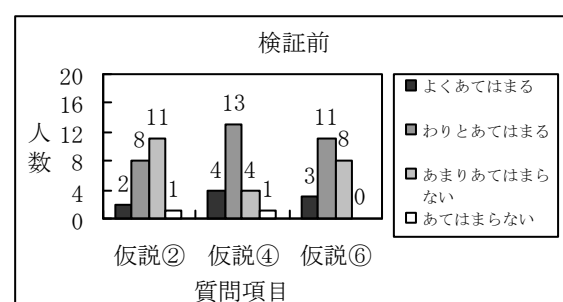


<評価票 ビジネス経済分野「国際ビジネス」の評価項目>

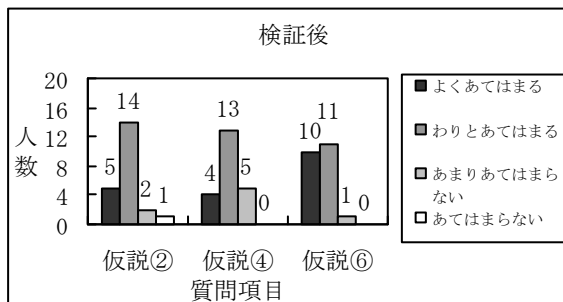
- 1 事実を正確に理解し伝達する力（仮説②）  
(企業の社会的責任について理解し、発表することができたか)
- 2 情報を分析・評価し、論述する力（仮説④）  
(企業調べを行った情報を分析し、レポートとしてまとめることができたか)
- 3 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる力（仮説⑥）  
(他の発表者の発表に対して理解し、共感することができたか)

検証前（9月）・検証後（11月）の比較

	検証前		
	仮説②	仮説④	仮説⑥
よくあてはまる	2	4	3
わりとあてはまる	8	13	11
あまりあてはまらない	1	4	8
あてはまらない	1	1	0



	検証後		
	仮説②	仮説④	仮説⑥
よくあてはまる	5	4	10
わりとあてはまる	14	13	11
あまりあてはまらない	2	5	1
あてはまらない	1	0	0



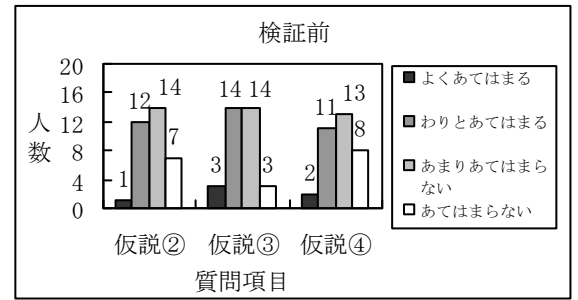
<評価票 会計分野「簿記」の評価項目>

- 1 事実を正確に理解し伝達する力（仮説②）  
(授業の説明を聞き、正しく理解しているか)
- 2 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする力（仮説③）  
(簿記会計の概念…5要素があることや現金が増えたらどうするかの記帳など)
- 3 情報を分析・評価し、論述する力（仮説④）  
(自分で問題集を解き、その内容を説明できるか)

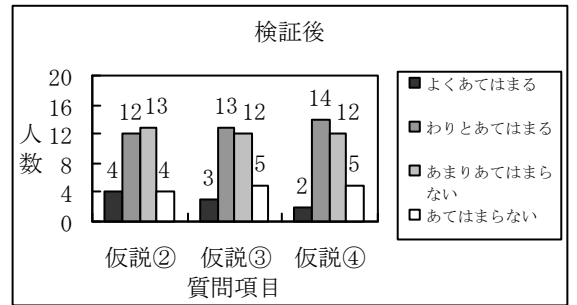


検証前（9月）・検証後（11月）の比較

	検証前		
	仮説②	仮説③	仮説④
よくあてはまる	1	3	2
わりとあてはまる	1 2	1 4	1 1
あまりあてはまらない	1 4	1 4	1 3
あてはまらない	7	3	8



	検証後		
	仮説②	仮説③	仮説④
よくあてはまる	4	3	2
わりとあてはまる	1 2	1 3	1 4
あまりあてはまらない	1 3	1 2	1 2
あてはまらない	4	5	5

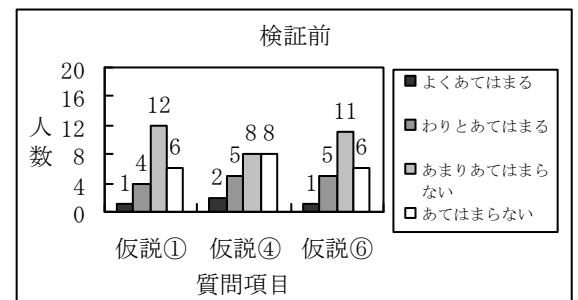


<評価票 ビジネス情報分野「電子商取引」の評価項目>

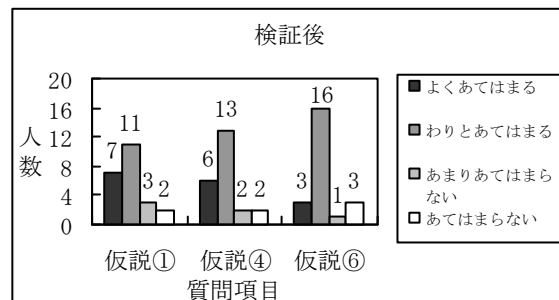
- 1 体験から感じ取ったことを表現する力（仮説①）  
（自分の体験を含め話したり論述することができたか）
- 2 情報を分析・評価し、論述する力（仮説④）  
（集めた情報を分析・評価し、それを論述することができたか）
- 3 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる力（仮説⑥）  
（周囲の生徒と話し合う際に、自分の考えを伝えながら他人の考えも理解しながら、結論までまとめることができたか）

検証前（9月）・検証後（11月）の比較

	検証前		
	仮説①	仮説④	仮説⑥
よくあてはまる	1	2	1
わりとあてはまる	4	5	5
あまりあてはまらない	1 2	8	1 1
あてはまらない	6	8	6



	検証後		
	仮説①	仮説④	仮説⑥
よくあてはまる	7	6	3
わりとあてはまる	11	13	16
あまりあてはまらない	3	2	1
あてはまらない	2	2	3



なお、自己評価票の分析は、各実践事例の「カ 本時の振り返り」に記す。

## (2) 集計票の活用

一人ひとりの自己評価票・相互評価票の結果を基に、集計票を作成し、教員が授業の改善に生かすことができるように、その活用方法を工夫した。

身に付けさせたい思考力・判断力・表現力等の質問項目について、「1 よくあてはまる」「2 わりとあてはまる」「3 あまりあてはまらない」「4 あてはまらない」のうち「1 よくあてはまる」と「2 わりとあてはまる」の肯定的な意見を得た箇所にマーカーで色を付け、短時間でかつ効果的に状況を把握し、教員が授業の改善に生かす及び生徒へのフィードバックを速やかに行う。

自己評価票の集計票（記入例）

番号	生徒氏名	仮説①	仮説④	仮説⑥
1		1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4
2		1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4
3		1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4
34		1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4
35		1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4
合計 (人数)				

### 3 実践事例

#### (1) 実践事例Ⅰ 「商品開発」(新設する科目)

本事例は、学習指導要領の新設する科目「商品開発」である。この科目の指導に当たっては、消費者の視点に立ち、流通活動を考慮して商品開発を主体的・創造的に行うことができるようにする。企業における商品開発の具体的な事例を取り上げたケーススタディを通じて、その特徴などについて理解させるとともに、地域産業や学校の特色などを踏まえて具体的な課題を設定し、商品の企画・開発・流通に関わる実践的・体験的な学習を取り入れる。また、視覚に訴えた効果的な商品開発、知的財産権に留意した適切な商品開発、知的財産権や考案したデザインの効果的な活用を行うことができるよう指導する。

さらに、生徒は、自己評価票・相互評価票を活用することを通して、明確な学習評価を行い、その後の学習活動の活性化と、より効果的な学習成果が得られるように配慮した。

実践的・体験的な学習内容として、校内の昼食販売に伴うオリジナルパンの商品開発に関わる学習指導案を以下に示す。

#### 【学習指導案】

教科名	商業	科目名	商品開発	学年	全日制課程商業科 第2学年
-----	----	-----	------	----	------------------

#### ア 単元(題材)名、使用教材(教科書、副教材)

単元名：商品コンセプトの立案と商品企画書の作成

使用教材：教科書「商品開発」(実教出版)

#### イ 単元の目標

- 商品開発に関する知識と技術を習得させ、顧客満足を実現することの重要性について理解させるとともに、商品を企画・開発し、流通活動を行う能力と態度を育てる。
- 商品開発を進める際の基礎となる商品コンセプトの立案と、商品コンセプトの魅力や特徴をまとめた商品企画書を作成する能力と態度を育てる。

#### ウ 単元の評価規準

観点	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品コンセプトの立案について関心をもち、意欲的に取り組む実践的な態度を身に付けている。</li> <li>商品企画書の作成について関心をもち、意欲的に取り組む実践的な態度を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場調査などから得られた情報に基づき、適切な商品コンセプトの立案及び商品企画書の作成を目指して、思考を深めている。</li> <li>立案した商品コンセプト及び作成した商品企画書が、外部の理解が得られるように適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブレインストーミング、アイデアマップ、KJ法、水平思考を活用しながら商品コンセプトを立案する技能を適切に活用している。</li> <li>立案した商品コンセプト及び商品企画書を作成する技能を適切に活用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品コンセプトの立案及び商品企画書の作成についての基礎的・基本的な知識を理解している。</li> <li>商品コンセプトを考案することの重要性及び商品企画書作成の意義について理解している。</li> </ul>

エ 指導と評価の計画（4時間）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
第一時	(1) 商品コンセプトとは 商品コンセプトを考案することの重要性について理解する。	●				・市場調査から得られた情報に基づき、オリジナルパンに関する商品コンセプトの立案のため、商品企画書の作成について探究しようとしている。【ア】
第二時	(2) 商品コンセプト立案の手順 校内及び外部の業者との企画会議で提案することを想定して市場調査を行い、ブレインストーミングやKJ法などを用いて、商品コンセプトを考案する。		●	●	●	・ブレインストーミング、アイデアマップ、KJ法、水平思考の種類と特徴について理解し、その知識を適切に活用し、商品コンセプトの提案に生かしている。【イ】【ウ】【エ】
第三・四時（本時）	(3) 商品企画書の作成とプレゼンテーション 商品名・デザイン・キャッチコピー・プロモーションを含めた具体的な商品企画書を作成し、プレゼンテーションを行う。		●	●		・立案したオリジナルパンの商品コンセプト及び作成した商品企画書が、他者の理解を得るために思考を深め、適切に判断して、プレゼンテーションにより、授業内及び外部業者へ導き出した考えを表現している。【イ】【ウ】

オ 本時（全4時間中の4時間目）

(7) 本時の目標

- ・商品コンセプトを考案することの重要性について理解させる。
- ・授業内及び外部業者との企画会議で提案することを想定して市場調査の分析結果から、ブレインストーミングやKJ法などを用いて商品コンセプトを立案させる。
- ・オリジナルパンに関する商品名・商品コンセプト・キャッチコピー・商品イメージ・開発背景・競合商品に対する優位性を含めた具体的な商品企画書を作成させる。
- ・商品企画書に基づき、授業内及び外部業者向けのプレゼンテーションを行わせる。

(4) 本時の展開

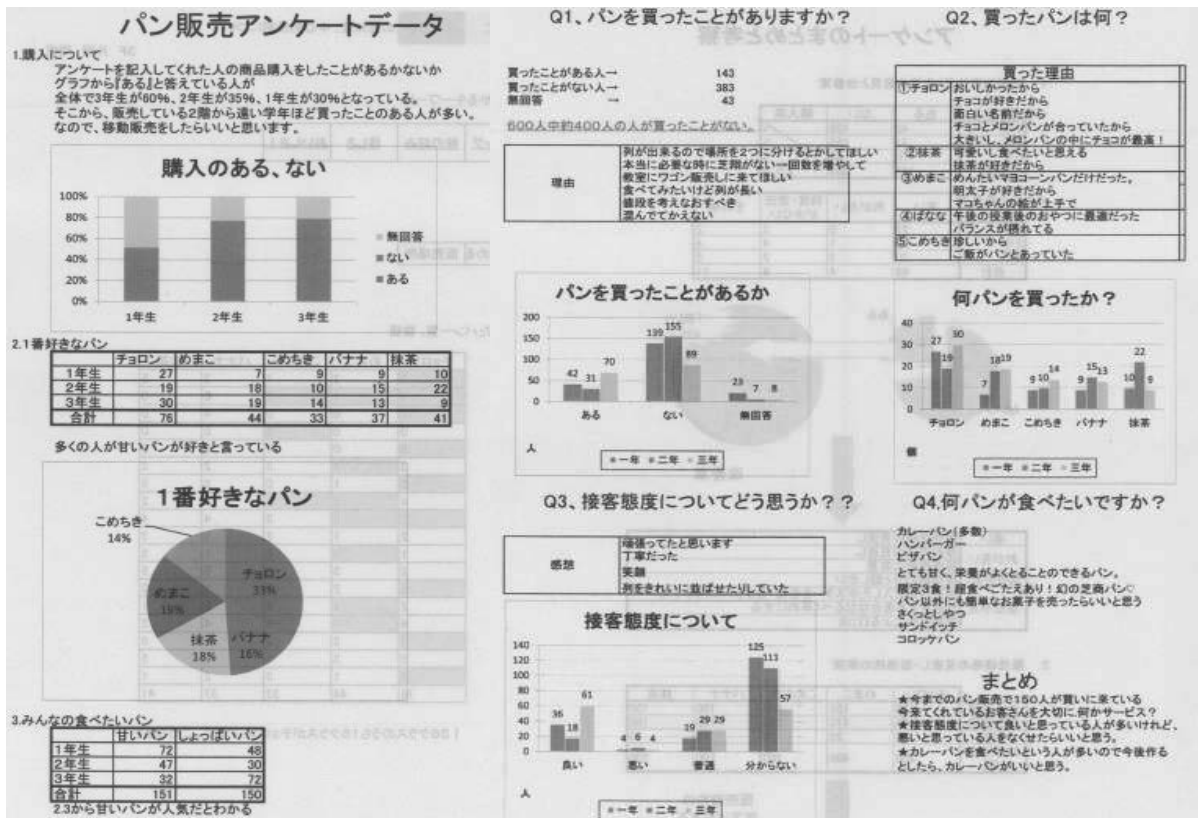
過程	時間	ねらい・学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の昼食販売に関する開発商品の競合状況、マーケットターゲットである在校生の消費実態や消費者ニーズ、消費者の生活行動や意識など、オリジナルパンの商品開発に必要な情報の種類と市場調査の方法について改めて理解し、分析結果について再度確認する。</li> <li>・商品コンセプトを考案することの重要性について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業における商品開発の具体的な事例を取り上げ、商品コンセプトの重要性を伝え、興味・関心を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナルパンに関する市場調査のための資料を収集し、情報を読み取り、整理している。【ウ】</li> <li>・商品コンセプトを考案することの重要性及び商品企画書作成の意義について理解し、整理している。【ウ】</li> </ul>

展開	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品コンセプトのマーケットターゲットを対象にした商品企画書を適切に作成し、まとめている。</li> <li>校内及び外部業者との企画会議で提案することを想定して、ブレインストーミングやKJ法などを用いて、商品コンセプトを考案し、商品名、デザイン、キャッチコピー、プロモーションなど具体的な商品企画書を作成し、プレゼンテーションを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品アイデアの発想を行うため、アイデアシートを利用する。</li> <li>商品企画書やプレゼンテーションの手法について、独自の考えを提案できるように促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的かつ論拠がしっかりしたオリジナルパンの商品企画書を作成している。【イ】</li> <li>これまで学習した知識・技能を適切に組み合わせてプレゼンテーションを行うことを目指している。【イ】【ウ】</li> </ul>
	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が考案したオリジナルパンに関する商品コンセプトの立案やプレゼンテーションの成果を自己評価票・相互評価票に記入し、自己評価及び他者評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価票を活用し、学習すべき内容を明確にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品企画書の作成やプレゼンテーションの成果から自己及び他者を評価することができている。【イ】</li> </ul>

## カ 本時の振り返り

### (7) 学習評価

生徒は、本単元の前に、本校生徒を対象とした市場調査を実施し、その結果を基に分析した報告書を改めて読み取り活用することができた。また、報告書の内容から、商品コンセプトを考案することの重要性及び商品企画書作成の意義について理解を深めることができた。



【図表：市場調査の分析結果をまとめたそれぞれの報告書】

生徒が市場調査を分析して作成した報告書は、様々な視点で分析されており、一つの情報をどのように収集し分析するかによって、消費者のニーズや今後の商品コンセプトの捉え方が違うことに気付かせることができた。

市場調査の結果を基に、生徒は、消費者の視点に立った商品開発の流れについて、体験的に理解することができるとともに、顧客満足の実現を目指すマーケティングの意義や役割などについて考えることができた。また、商品コンセプトについて深く考え、その考えを相手に分かりやすく伝える商品の企画、商品開発を行うことができた。さらに、顧客満足の実現のため、商品コンセプトやマーケティング活動についてプレゼンテーションも行い、表現力を高めることができた。

評価票を活用して、自己評価及び他者評価を行うことで、学習すべき内容及び身に付けさせる能力が明確になった。

#### (イ) 仮説の検証

思考力・判断力・表現力等を育むための学習評価として、共通項目の自己評価票・相互評価票を活用した。この単元の評価票の内容を具体的に整理すると、③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用する力として、商品開発における市場調査の役割や分析結果を解釈し、商品コンセプトや企画を提案できたか、⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する力として、商品アイデアのスクリーニングを通して商品コンセプトや企画につなげることができたか、⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる力として、商品アイデアのさまざまな発想方法において、互いの考えを発展させることができたかを授業のねらいとして説明する評価票を作成し、授業実践を行った。

評価票を活用することで、生徒が以前の学習活動に比べ、評価項目の内容を意識的に実践しようとする態度が生まれた。集計結果からも、生徒が思考力・判断力・表現力等を身に付けたことを自覚するとともに、相互評価においてもそれぞれの力が身に付いたことを生徒同士が認めている結果を確認することができた。

一方、授業を展開する中で、思考力・判断力・表現力等を育むために意識的に意見交換や発表する学習活動の機会を増やした。この取組から、評価項目を明確にした評価票を活用することで、思考力・判断力・表現力等を育む授業が達成されていることが分かった。



【市場調査の分析】



【上段:外部業者との会議】

【中段:商品化されたパン】

【下段:パン販売の様子】

(ウ) 生徒の変容

- ・生徒は、企業が行っている流通活動に興味・関心をもつようになった。
- ・プレゼンテーション能力が高まった。
- ・自己評価とともに相互評価を行うことで、プレゼンテーションの内容や方法の改善を効果的に行うようになった。
- ・顧客満足の実現のため、流通活動を主体的・創造的に行うようになるとともに、グループとして流通活動を行うようになった。
- ・新しい商品やサービスを考え出すことの重要性を学ぶとともに、売上目標を達成するための流通戦略を考えるようになった。
- ・自分自身の意見を持ち、自分の意見の根拠を説明できるようになった。
- ・他者のプレゼンテーションに対して、どこが良かったのか、なぜ良かったのかを説明できるようになった。
- ・生徒たちは、自分たちが考案した商品が顧客に満足していただけるように主体的に活動するようになった。

(2) 実践事例Ⅱ 「国際ビジネス」

本事例は、企業のCSR（社会的責任）を調べ、発表を取り入れるとともに、自己評価票・相互評価票の活用を通して、思考力・判断力・表現力等を育む授業実践である。

教科書だけでは、企業のリアルタイムの実情を知ることができないため、インターネット等を活用することにより、生徒が興味・関心のある企業を選択し、環境問題への取組や社会貢献の実情を知る。企業のCSRをウェブページで検索し、興味・関心をもった他人に伝えたい内容を選択し、分かりやすくパワーポイントにまとめて、発表を行う。プレゼンテーションでは、身だしなみや目線・声の大きさ等に気を付けながら、画面を終始読むだけにならないように、授業で繰り返し実践する機会を与え、経験を積ませる。

自己評価票・相互評価票、発表後の感想を基に反省点や改善点をまとめ、フィードバックを行い、次回の発表に役立てるPDCAサイクルを継続的に実施した。

【学習指導案】

教科名	商業	科目名	国際ビジネス	学年	全日制課程 商業科 第3学年
-----	----	-----	--------	----	-------------------

ア 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

単元名 企業の社会的責任

使用教材 国際ビジネス（実教出版） 国際ビジネス問題集（実教出版）

イ 単元の目標

- ・企業の環境問題への対応や社会貢献の現状を理解させる。
- ・法令厳守（コンプライアンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、説明責任（アカウンタビリティ）の重要性を理解させる。

## ウ 単元の評価規準

観点	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
単元の評価規準	・企業のCSRに対して関心を持ち、その質的变化や環境問題への取組について、積極的に探求しようとしている。	・企業のCSRについて様々な観点から考察し、思考を深め、その動向や課題を的確な分析を通して適切に判断し、導き出した考えを表現している。	・企業のCSRについて、具体的な事例を収集し、得られた情報のもつ意味を読み取り、整理している。	・企業のCSRについての基礎的・基本的な知識を身に付け、その特徴などについて理解している。

## エ 指導と評価の計画（5時間）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
第一時	・教科書を使用しながら、企業のCSRについて学習する。	●				・企業のCSRに対して関心を持ち、その質的变化や環境問題への取組について、積極的に探求しようとしている。【ア】 ・調べ学習に対して主体的に取り組む姿勢が見られる。【ア】
第二時（本時）	・インターネットを活用して、身近な企業のCSRとしての社会貢献、サステナビリティ（持続可能性）、CSRレポートについて調べ、発表レポートにまとめる。		●		●	・調べた情報について、思考を深め、基礎的・基本的な知識を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。【イ】【エ】
第三時	・発表レポートを完成させ、プレゼンテーション資料を準備する。			●		・調べた情報を分かりやすくまとめて、プレゼンテーションソフトを利用して発表できる資料に整理している。【ウ】
第四時	・パソコンを使用して、完成したレポートを発表する。		●			・企業のCSRについて、具体的な事例を通して適切に判断し、導き出した考えをこれからの企業経営のあり方として一定の方向性を提案している。【イ】
第五時	・パソコンを使用して、完成したレポートを発表する。  ・学習のねらいを理解しているか自己評価票・相互評価票に記入する。		●			・企業のCSRについて、具体的な事例を通して適切に判断し、導き出した考えをこれからの企業経営のあり方として一定の方向性を提案している。【イ】 ・プレゼンテーションによるレポート発表会を通して、学習のねらいを理解している。【イ】

## オ 本時（全5時間中の2時間目）

### (ア) 本時の目標

企業活動が社会に及ぼす影響について具体的な事例を調べ、企業が責任をもつことの重要性について理解させる。



(イ) 本時の展開

過程	時間	ねらい・学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の事例を確認する。</li> <li>・インターネットを活用して、調べ学習についてまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の事例を思い出させ、何を調べるのかを確認させる。</li> <li>・全体で発表することを踏まえて、分かりやすくまとめるように指示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習に対して主体的に取り組む姿勢が見られる。【ア】</li> </ul>
展開	35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを活用して、身近な企業のCSRとしての社会貢献、サステナビリティ、CSRレポートについて調べる。</li> <li>・パワーポイントを使用し、プレゼンテーション用のレポートを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットでの検索方法、ポイントについて指導し、より早く検索できるようにさせる。</li> <li>・生徒のパソコン検索状況を随時確認し、努力を要する生徒に対して適切に指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット上から必要な情報を的確に収集し、その内容について理解している。【エ】</li> <li>・調べた情報について思考を深め、適切に判断し、導き出した考えをレポートに分かりやすく表現している。【イ】</li> </ul>
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートを保存する。</li> <li>・次回のプレゼンテーション準備について予定を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートが全員保存できているか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートの内容に関する調べた情報の内容について、理解している。【エ】</li> </ul>

カ 本時の振り返り

(ア) 学習評価

検証授業前と後の自己評価票の結果の変化を生徒に提示し、生徒自身の学習活動に対しての取組や考え方がより主体的になったという事実を明示することができた。また、相互評価票の結果が、自己評価票より高くなる結果が得られたことにより、発表の場面等において、生徒は、他者に認められることを実感し、自信をつけることができた。

(イ) 仮説の検証

検証授業前と後に、同様の質問項目による自己評価票を実施し、仮説の検証を行った。検証授業前より後の方が、自己評価票の設問に対して、「あてはまらない」から「あてはまる」の方向へ意識の変化が見られた。単元ごとに、授業で身に付けさせたい思考力・判断力・表現力等を明確に記入した自己評価票を活用し、授業の中で意識的に繰り返し実践することで、生徒の思考力・判断力・表現力等を伸ばすことができた。



【パワーポイントを操作する生徒の様子】

### (ウ) 生徒の変容



検証授業後の自己評価票と同時に、生徒には、プレゼンテーションによるレポート発表についての感想を記入させた。記述内容からは、「調べた企業の複数あるCSRからどれを選んでどの部分を強調させて発表をするのかを決めるのが遅れてしまったことで、作業時間が削られ、最終的には企業のウェブページから引用することになったので、納得いく作品にはなりませんでした。決められた時間内に必要とする情報を調べまとめることの大変さが理解できました。」

【ICT機器を使用した普通教室の発表風景】 授業への取組に関わる意識の変化が確認できた。

さらに、「パワーポイントで画像やグラフを使用している人がいたので、次の機会には使用したい。」「声が大きく、前を向いて話す人がいたので、すごいと思いました。」と他者の発表を見ることによって、自分のプレゼンテーションに足りないものは何かを理解していた。「就職したら、必ず誰かの前で今回みたいに意見や調べた内容をプレゼンテーションすることがあると思うので、良い練習になった。」と、今回の学習活動が、次の学習活動につながる貴重な体験となった。

自己評価票・相互評価票及び発表の感想は、生徒にとって、「記入したら終わり」にならないよう、必ずフィードバックさせ、生徒自身に気付かせる体験を積み重ねることが重要である。

今後の課題は、自己評価票・相互評価票を一年間を通して活用することで、生徒が主体的に授業に取り組む態度を養い、思考力・判断力・表現力等を伸ばすことである。

### (3) 実践事例Ⅲ 「簿記」

本事例は、簿記で学習した精算表から発展させて、財務諸表の作成を理解させる。企業の決算報告から、第一学年の基礎的知識でどこまで企業分析ができるかを実践する。E D I N E T (エディネット)「金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム」を活用し、生徒が興味・関心をもつ企業を提示する。また、これまでに学習した損益計算書・貸借対照表とは報告様式が違う部分を説明して、生徒の知識を確認しながら、企業の資産・負債・純資産・収益・費用の5要素について理解させる。授業で学んだ知識が、企業の全体像を見ることに役立てられていることを理解させる。

【学習指導案】

教科名	商業	科目名	簿記	学年	全日制課程総合ビジネス科 第1学年
-----	----	-----	----	----	----------------------

ア 単元(題材)名、使用教材(教科書、副教材)

単元名:「財務諸表の作成」

教科書:新簿記【新訂版】(実教出版)

使用教材：自作プリント

## イ 単元の目標

- ・知っている企業名を挙げさせ、これまでの簿記の学習内容が社会に出て、役立つ知識となっていることを理解させる。また、体系的な企業の財務諸表から企業の全体像を理解させる。
- ・勘定科目と金額から企業の状況を想定させる。
- ・同業他社2社の財務諸表を用意し、分析の対象とした企業の決算書と同業他社2社の財務諸表を基に比較票を作成させる。
- ・企業の目的とは何かを考えさせる。

## ウ 単元の評価規準

観点	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
単元の評価規準	・決算整理を伴う決算手続きは、どのように行うのかについて関心をもち、自分から進んでまとめたり、問題演習に取り組んでいる。また、作成した財務諸表を見て、企業の状況について探究しようとしている。	・なぜ、決算整理を行うのか、なぜこのように整理仕訳を行うのかなどについて思考を深め、財務諸表を基に企業の状況について適切に判断し、導き出した考えを表現している。	・決算整理を伴う決算を行うための基礎的・基本的な意味を読み取り、整理している。	・決算手続きの意味を理解し、決算手続きに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。また、財務諸表の作成に関する基礎的・基本的な知識を有し、財務諸表の役割を理解している。

## エ 指導と評価の計画（4時間）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
第一時	・帳簿決算の意味 決算のために必要な記帳を行い、仕訳帳や総勘定元帳などの締切りを行う。	●			●	・決算のために必要な記帳や締切りについて探究しようとしている。【ア】 ・決算整理に関するそれぞれの勘定科目の違いと特徴などについて理解している。【エ】
第二時	・財務諸表の作成（損益計算書） 帳簿記録に基づいて、損益計算書を作成する。			●	●	・5要素を理解し、収益・費用の種類と特徴を理解して、損益計算書を作成している。【ウ】【エ】
第三時	・財務諸表の作成（貸借対照表） 帳簿記録に基づいて、貸借対照表を作成する。			●	●	・5要素を理解し、資産・負債・純資産の種類と特徴を理解して、貸借対照表を作成している。【ウ】【エ】
第四時（本時）	・財務諸表の作成（事例研究） 企業の決算報告書を活用して、企業分析を行う。		●	●		・帳簿決算について思考を深め、企業の決算報告書を基に、適切に判断し、企業の財務諸表を読み取り、分析し、導き出し考えを表現している。【イ】【ウ】

## オ 本時（全4時間中の4時間目）

### (7) 本時の目標

- ・簿記の5要素を活用できるよう基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。
- ・具体的な企業の資料から情報を分析・評価する力を身に付けさせる。
- ・主体的に学習に取り組む態度を身に付けさせる。

### (イ) 本時の展開

課程	時間	ねらい・学習活動	指導上の留意点	評価基準・評価方法
導入	5分	・知っている企業を挙げてこれまでの学習が活用できることを理解する。	・簿記の5要素などを再確認する。	・具体的な企業名を挙げて、主体的に学習に取り組もうとしている。【ア】
展開	35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の関心の高い企業を想定し、その財務諸表を確認する。貸借対照表と損益計算書からどのような企業か考える。</li> <li>・企業の決算報告書から5要素を読み取り、簡単な損益計算書、貸借対照表を作成する。</li> <li>・総資産の大きい企業、利益率の高い企業の数値から、それぞれの企業の違いを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業種によって、どのような違いがあるかを考えさせる。</li> <li>・損益計算書・貸借対照表について、簡単に復習し、生徒の理解度に配慮する。</li> <li>・異業種、同業他社による違いについて、生徒に気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の決算報告書からその特徴について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、財務諸表を読み取り、分析し、導き出した考えを表現している。【イ】【ウ】</li> </ul>
まとめ	10分	・企業の財務諸表から企業の全体像を読み取り、理解する。	・身に付けた基礎的・基本的な知識が活用できたか生徒の理解を確認する。	・企業の財務諸表から得られた情報を読み取り、整理している。【ウ】

## カ 本時の振り返り

### (7) 学習評価

生徒の思考力・判断力・表現力等を向上させるため、自己評価票を活用して、授業を進めた。9月の検証授業では、生徒に自己評価票の内容を意識的に繰り返し説明し、授業を展開した。簿記は、学習内容が進むにつれ高度になるため、評価結果が低くなっていくと危惧していたが、生徒が興味・関心をもつ簿記の活用事例を紹介していくと、積極的に学習に取り組む生徒が増え始め、思考力・判断力・表現力等を育む学習活動を行うことができた。今後とも継続して行うことで、更に生徒の学習活動の活性化を図っていきたい。

### (イ) 仮説の検証

生徒の自己評価は、これまで数値化して視覚化・具体化されていなかったが、自己評価票を活用することで、客観的な判断ができた。生徒に対して、学習指導の目標と同時に、思考力・判断力・表現力等の育成をどのように図っていくのか説明し、正しく理解させた。生徒が学習を進めるに当たり、何が求められていて、どのように評価されるのか明確にするため

に、自己評価票を活用していくことは、生徒の思考力・判断力・表現力等を育てていく上で効果があった。

一部の生徒において、自己評価が低いものが見受けられ、手立てが必要であった。生徒の自己評価票を分析し、35人全ての生徒に、学習内容の理解状況に応じた関わりができていないことが分かり、次の単元からはその時間に質問や声掛けを行い、課題解決に向けた対応を行った。また、今まで明確でなかった評価が、数値化・視覚化・具体化されることで、学習評価を整理することができた。生徒の自己評価は、単元ごとが適切で、学習活動を通して、どこに目標をもち、どのように取り組ませるべきか、明確にして授業を行うことができた。

#### (ウ) 生徒の変容

生徒の興味・関心を高めるため、株式会社オリエンタルランドを題材にした。発表されている数字や専門用語の意味を読み取り、理解させるためには十分な説明と時間が必要とされたが、生徒は、自分たちが学習している専門用語が、現実の世界で活用されていることに刺激を受けながら、学習意欲の向上に結び付けることができた。企業の経営成績・財政状態を明らかにする必要性に触れ、理解を深めた。



【配付された決算報告の質問をしている様子】

生徒からは、株式についての質問があり、企業は、株式を公開していて、その株式を購入することができる話に興味・関心を示すなど、授業に対する意欲の向上が見られた。



【決算報告の内容を分析している様子】

授業では、コンピュータ室を使わず、事前にインターネット上のEDINETを活用して、決算報告書を印刷・配付したが、今後は自分の興味・関心のある企業を検索して、その企業について分析するなど、生徒が主体的に取り組む授業に発展させる。

生徒が、簿記を身近に感じ、実感・体験できる内容を授業の中に盛り込んで、思考力・判断力・表現力等を育む授業を実践していく研究を更に進めることが今後の課題である。

#### (4) 実践事例Ⅳ 「電子商取引」

本事例は、学習指導要領の再構成した科目「電子商取引」である。各学校が教育課程編成上、生徒の学習したいとの要望が高いと想定される科目でもあり、実践事例として取り上げた。

「電子商取引」の目標として、「情報通信ネットワークを活用した商取引や広告・広報に関する知識と技術を習得させ、情報通信ネットワークを活用することの意義や課題について理解させるとともに、情報通信技術を電子商取引に応用する能力と態度を育てる」と示されている。本部会の研究テーマを踏まえ、ウェブページを活用して広告・広報を行うための基礎的な知識や

技術、ウェブページの制作に必要な基礎的な知識や技術を身に付けさせることを目標とし、生徒の思考力・判断力・表現力等を育むために、グループでの作業を積極的に取り入れた。

また、生徒の思考力・判断力・表現力等を明確に評価するために、生徒が使用する自己評価票・相互評価票は、同じ評価項目・内容で作成し、総合的に評価できるように工夫した。

**【学習指導案】**

<b>教科名</b>	<b>商業</b>	<b>科目名</b>	<b>電子商取引</b>	<b>学年</b>	<b>定時制課程 総合学科第2年次</b>
------------	-----------	------------	--------------	-----------	---------------------------

**ア 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）**

単元名 ウェブデザインと広告・広報

使用教材 自校作成ワークシート

**イ 単元の目標**

- ・ウェブページを活用して広告・広報を行うための基礎的な知識と技術を習得させる。
- ・ウェブページの制作に対する要求を分析し、それを基に企画・立案して制作する手順や方法について理解させる。
- ・ウェブページの制作に必要な配色、構成、フォントの選択など、デザインに関する基礎的な知識と技法を習得させる。
- ・企業広告、商品広告及び広報を行うウェブページを制作するための技法を習得させる。
- ・上記の一連の作業をグループで実施し、自分の考えを正確に分かりやすく伝えたとともに他人の考えも理解し、グループの意見や見解をまとめる能力を身に付けさせる。

**ウ 単元の評価規準**

観点	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
単元の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブページの制作について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・制作者、利用者それぞれの立場に関心を持ち、その特徴について探究しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を収集、分析し、ウェブページの制作について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを作品制作に表現している。</li> <li>・グループ協議で自分の考えを分かりやすく正確に伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブページの制作について、情報を収集し、得られた情報の意味を読み取り、整理している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の広告や広報活動、ウェブページの制作などに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その種類と特徴について理解している。</li> </ul>

**エ 指導と評価の計画（6時間）**

時間	ねらい・学習活動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
第一時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の具体的な広告などを通して広報活動について理解する。また、広告の作成に重要なキャッチコピーやボディーコピーを理解する。</li> <li>・必要に応じてインターネットを活用し、情報の収集・分析を行い、必要な資料をまとめる。</li> </ul>	●		●		<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の広報活動について感心を持ち、その特徴について探究しようとしている。【ア】</li> <li>・今までに学んできたことを生かし適切な情報を収集、分析を行い、必要な資料を整理している。【ウ】</li> </ul>

第二時	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで商品のキャッチコピー・ボディコピーの企画・立案・制作を行う。</li> <li>グループ協議の際は、自分の考えを正確に分かりやすく伝えるとともに、他人の考えも理解し、グループとしての意見をまとめる。</li> </ul>	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品制作に興味・関心をもち、主体的に学習に取り組んでいる。</li> <li>【ア】</li> <li>自分の考えを正確に分かりやすく伝えるとともに、他人の考えも理解し、グループとしての意見をまとめ、整理しようとしている。</li> <li>【イ】【ウ】</li> </ul>
第三時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループに分かれて制作したキャッチコピー、ボディコピーの発表準備及び発表を行う。</li> </ul>	●	●		<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの一員として、発表の準備等に取り組み、グループでまとめた意見・考えを基に発表を行っている。【イ】【ウ】</li> </ul>
第四・五時	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェブページ制作に関するデザインの基礎について理解する。</li> <li>グループに分かれてウェブページの制作を行い、グループ協議の際は、自分の考えを正確に分かりやすく伝えるとともに、他人の考えも理解し、グループとしての意見をまとめる。</li> </ul>	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までに学習した基礎的・基本的な知識を身に付け、理解している。【エ】</li> <li>自分の考えを正確に分かりやすく伝えるとともに、他人の考えも理解し、グループとしての意見をまとめ、整理しようとしている。</li> <li>【イ】【ウ】</li> </ul>
第六時	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループに分かれて制作したウェブページの発表準備及び発表を行う。</li> </ul>	●	●		<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの一員として、発表の準備等に取り組み、グループでまとめた意見・考えを基に発表を行っている。【イ】【ウ】</li> </ul>

#### オ 本時（全6時間中の3時間目）

##### (ア) 本時の目標

- 自分の考えを正確に分かりやすく伝えるとともに、他人の考えも理解し、グループとしての意見をまとめ、キャッチコピー・ボディコピーを完成させることで、コミュニケーション能力や表現力の大切さを感じさせる。
- プレゼンテーションソフトを活用し、表現力の育成を図る。
- 自己評価と相互評価を行うことで、思考力・判断力・表現力等が必要なことに気付かせるとともに、今後、この力を育成していくことを意識させる。

##### (イ) 本時の展開

過程	時間	ねらい・学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表者（作成者）及び聞き手（依頼者）の立場のポイントを明確にする。</li> <li>授業の目的を理解し、グループに分かれて発表の準備、手順、内容を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの役割分担について、事前に確認し、発表しやすい雰囲気づくりを行う。</li> <li>発表後、自己評価と相互評価を記入することを意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャッチコピー・ボディコピーなどについて得られた情報の意味を読み取り、整理している。【ウ】</li> <li>キャッチコピー・ボディコピーなどに関する情報を分析し、グループの一員として、発表の準備をしている【イ】</li> </ul>

展開	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに3分から5分で作成した作品の発表を行う。グループで取り組んでうまくいった点や、いかなかった点についても発表する。</li> <li>・発表は、自己評価、相互評価の評価項目を踏まえる。</li> <li>・発表を聞く際は、ワークシートに良かった点を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者や聞き手のマナーについて指導し、発表がスムーズに進む環境づくりを行う。特にグループで取り組んだ発表であることを意識させる。</li> <li>・発表者の立場、聞き手の立場で評価させる。</li> <li>・両方の立場からワークシートにそれぞれまとめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成者の立場や発表者のマナーを意識しプレゼンテーションソフトを活用して、グループの一員として発表に積極的関わっている。<b>【イ】【ウ】</b></li> <li>・発表は、グループの考えをまとめ、表現できている。<b>【イ】</b></li> <li>・グループ協議を通して依頼者が期待するキャッチコピーなどを表現できている。<b>【イ】【ウ】</b></li> </ul>
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の振り返りと自己評価票と相互評価票の記入を行う。</li> <li>・提出物の確認を行う。</li> <li>・次回の授業内容を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめとしてグループ作業の大切さや、発表者（作成者）と聞き手（依頼者）の立場のポイントを説明する。</li> <li>・グループでの初めての発表が今後のグループ協議に生かされるよう工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後のウェブページ作成・発表にグループで経験を生かして改善しようと意見交換している。<b>【イ】</b></li> </ul>

## カ 本時の振り返り

### (ア) 学習評価

授業実践に当たり、自己評価票・相互評価票の評価項目については、分かりやく明確な評価の内容が示されているが、授業の前に生徒が、具体的に授業でどのようなことを意識し心掛けて取り組めばいいのかを分かりやすく説明を行った。その効果もあって、生徒は、授業の中で取り組むべき目標がはっきり定まり、検証授業前と後では、生徒一人一人の意識が変わり、学習意欲を引き出し、グループ協議も慣れるにしたがって、活発な意見交換が行われる結果につながった。このグループ作業を積極的に取り入れ、グループの中に自分を置くことで、今まで自分が身に付けられていなかった思考力・判断力・表現力等を育む動機付けとなった。

実践事例の科目だけではなく、商業科目全般で継続的に実施し、思考力・判断力・表現力等を育むことが課題である。

### (イ) 仮説の検証

生徒の自己評価票・相互評価票について、グループでの発表を取り入れた授業の中で、検証授業前と後の比較を行った。思考力・判断力・表現力等を育む項目として取り上げた三つの評価項目について、それぞれ顕著な伸びを見せた。評価項目1では、常にグループ討議において、過去の自分の経験を必ず盛り込むよう指導したこと、評価項目2では、最初の授業において、情報の分析・評価、論述する方法について詳しく触れたこと、評価項目3では、グループ討議や制作において、必ず3回は自分の考えを発言し、相手に伝えることをルールにしたことで、生徒一人ひとりの意識や行動を変えていくことができた。

生徒に、思考力・判断力・表現力等を確実に身に付けさせるため、今後も継続して取り組む必要がある。毎時間授業では、これから行う授業はどのような力を育むための授業で



あるかを説明し、授業を展開している。生徒一人ひとりの動機付けや意識付けに、大きな力を発揮していることを確認することができた。ある特定の商業科目だけで、期間を限定して実施するのではなく、商業科目全般で、継続的に繰り返し実践することが、思考力・判断力・表現力等を育む学習活動の定着につながる。

#### (ウ) 生徒の変容

グループ作業を積極的に取り入れ、この作業の中でどのようなことを学習の目的にし、どのような力を身に付けてほしいのかを明確に生徒に伝え、意識的に繰り返し実践した。その結果、生徒一人ひとりが、今、身に付けなければならない能力について、自覚をもって臨むようになった。自己評価票や相互評価票に具体的な評価内容を示すことにより、どのような観点で評価されることになるのかが生徒に伝わり、身に付けなければならない力が明確になり、生徒が授業に対して主体的に取り組もうとする姿勢が見え、学習意欲が向上した。生徒に明確な評価基準を説明し、理解させることによって、思考力・判断力・表現力等を育むことができた。

## VI 研究の成果

研究主題を「思考力・判断力・表現力等を育むための授業実践と学習評価の提示」とし、また、研究の視点を、思考力・判断力・表現力等を育むための「具体的な授業実践の研究」及び「明確な評価規準・活用方法の研究」とし本研究をすすめた。授業実践は、学習指導要領にある各分野から1科目ずつ計4科目を選択し、実践事例を示した。思考力・判断力・表現力等を育むための明確な評価規準・活用方法の研究では、自己評価票・相互評価票を作成し、特に自己評価票は、集計結果を視覚化するなど、活用方法及び集計票の提案を行った。

商業部会では、思考力・判断力・表現力等を育む学習活動の現状とその取組を確認していく中で、学習評価の現状に大きな課題が見えてきた。「高等学校学習指導要領」や「高等学校学習指導要領解説商業編」を基に学習指導要領の改定のポイントを再度確認するとともに、「言語活動の充実に関する指導事例集」を参考に、思考力・判断力・表現力等を育むための学習活動及び言語活動を充実させていくために、科目の特質を踏まえつつ、言語活動を意図的・計画的に指導していくことが重要であることを再認識した。これらのことを踏まえ、自己評価票・相互評価票を作成し、授業実践を重ねながら、評価票を活用することに取り組んだ。評価票は、その趣旨からどの科目及び単元においても活用し、応用することができるように配慮した。

評価票を活用した授業実践の結果は、既に示した（p 5）とおりにある。各科目における学習活動において、思考力・判断力・表現力等を育むねらいを生徒に明らかにして、意識させながら授業を展開していくことで、思考力・判断力・表現力等を確実に身に付けさせていくことができる。また、学習指導と学習評価を一体的に行うことにより、生徒一人ひとりに学習内容の確実な定着を図ることができるとともに、教員は、評価票を活用して学習評価の結果を踏まえ、授業の改善につなげられることを検証することができた。

## Ⅶ 今後の課題

これからの教育は、「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力等の育成が求められている。「生きる力」を身に付けさせるためには、生徒が自分自身で学習活動を振り返り、自己を見つめるといった自己評価を正しく行う能力を高めていくことが必要である。

学習評価の留意点は、きめ細かい学習指導の充実と生徒一人ひとりの学習内容の確実な定着を図るため、知識や技能のみの評価など一部の観点に偏った評価が行われることのないように、観点別に評価を行うことが重要である。各科目において、定期テストや提出物などを点数換算とした画一的な評価を行うのではなく、体験や実習を多く取り入れ、その学習状況を十分踏まえた評価を行わなければならない。学習評価を通して、授業の改善、個に応じた指導の充実、指導計画の見直し等に生かし、生徒が自己評価を正しく行う能力を高め、自己理解を深められるものにする。

生徒が、自己の学習内容を点検するための自己評価を正しく行う能力を高め、また、教員の観察と生徒の自己評価が、双方向に機能することで、自己評価を意識的に組み入れた指導計画や授業展開ができる。また、自己評価は、生徒の内面に働きかけるものとなるため、生徒が主体的に活動することができるように教員の指導上の工夫が求められる。

一方、自己評価は、主観的なものとされ、信頼性、妥当性が課題となる。自分に対する評価が甘すぎたり厳しすぎたりするといった問題も考えられるが、生徒の過度の思い込みを少しでも信頼性のあるものにするため、相互評価の活用方法についても触れた。自己評価は、自信を促すものとしての側面ももち、相互評価を取り入れることによって、自信を無くすものになってしまうことのないように配慮しながら、自己評価と相互評価を併用すべきである。

自己評価票・相互評価票の実践は、教員の評価資料の一つとして利用するものではなく、生徒が自己評価を正しく行う能力を高め、自己理解を深めていくために活用していくものである。今回の研究の成果に満足することなく、今後も生徒の思考力・判断力・表現力等を育むために、評価票の活用を継続し、更なる授業実践を行っていきたい。

# 平成25年度 教育研究員名簿

## 高等学校・商業

学校名	課程	職名	氏名
都立稔ヶ丘高等学校	全日制	主幹教諭	◎箭内 謙也
都立荒川商業高等学校	全日制	主幹教諭	○野村 頼和
都立第一商業高等学校	全日制	主任教諭	馬場 千秋
都立芝商業高等学校	全日制	主幹教諭	久保 静生

◎ 世話人      ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 課務担当係長 二宮 浩二

平成25年度  
教育研究員研究報告書

高等学校・商業

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成25年度第193号〕

〔平成26年 3月〕

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6836  
印刷会社 昭和商事株式会社